

## 4つの森林活動

みなさまの参加を  
お待ちしております



**小手澤の森**  
第1・3日曜日



**知足の森**  
第1・3日曜日



**相模湖・嵐山の森**  
小原本陣の森  
不定期活動

# News Letter

## NPO法人緑のダム北相模

[midorinodam.jp](http://midorinodam.jp)



**No.601-602**

この時期恒例の知足の森の広葉樹林の整備をしています

### 【定例活動報告】 小手澤の森

さくらの花も咲き始めた小手澤の森の果樹園で柿の木の剪定作業しました。中央高速道路の管理道路延長100mの下側の法面を果樹園として、今はさくら、ふよう、つつじ、あじさい、すもも、ゆず、柿等を植えて大きくなり果実が実ったゆず、柿は自由に収穫出来る地域で地元では喜ばれています。果樹には中学生が作った明示板が取り付けられております。今回は不完全渋柿として種が多いと渋が抜けるが少ないと渋い部分が残るが脱渋するとゴマが出る「禅時丸柿」を剪定、先ず柿の木の下に笹があり斜面になっておりますので刈払い機で下草刈りをしまして、柿の木に登る為の脚立を立てて紐で固定、少し離れたところから樹形をみて剪定する枝を決めます、柿の木は剪定作業しなければ上に横に伸びて樹形が大きくなって

緑のダム北相模は相模原  
市内で活動する森林ボラ  
ンティアです。急がず、無  
理せず、楽しく、休ま  
ず、ボチボチと・・・

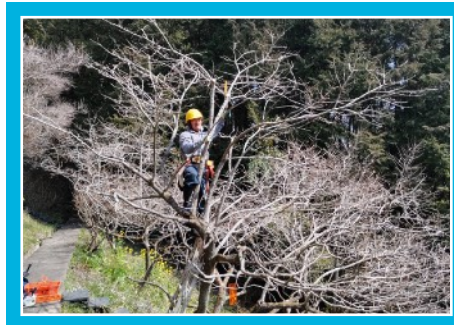


収穫の時は危険をとまいません。腰に安全ベルトを装着して柿の木に登りフックを枝にかけて安全確保。手のこざりて徒長枝と言われる上向き枝を切りますが横に伸びた枝で地面に落ちてくれませんので、すき間を上手く利用して地面に落とし、4、5回柿の木に登り下りして切る枝を選定して枝の分かれ目できり樹形を整えます。その後剪定枝は50cm程で剪定ばさみを使い出来る限り細かくして法面に積み上げ腐らせます。

17世紀から明治時代までは柿の木は、濃尾平野南西部では洪水が頻繁に起きる地域で洪水対策として集落や耕地を堤防でめぐらせ洪水から避難するとき母屋の軒下や玄関に船を吊り下げて洪水が起きたとき上げ船を降ろして船つなぎの木（柿）につなぎ非常時に備えた。

正月の三が日にかたいものを食べて歯を丈夫にし長寿を願う「歯固め」でほし柿を食べて何事にも人に勝つように勝栗と豆を食べることが民衆に広く伝えられた。小手沢の森には成熟すれば実全体が甘くなる「富有柿」「二郎柿」と「禅時丸柿」と同じ「甘百目柿」そして11月上旬収穫して干し柿にする「蜂屋柿」あります。渋とりの方法は平皿に35%のホワイトリカー1cm程度入れてヘタの部分をつけヘタとヘタとを重ねてポリ袋にいれ涼しい所に2週間程放置しておく。又は温湯脱渋方は40度程のお湯に15時間付けて渋をぬく。これは無酸素呼吸によってアルコールが合成され渋が抜けるが日持ちが悪いです。

石井 明男（本会、理事）

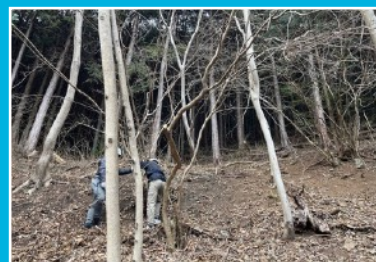


## 【定例活動報告】 知足の森

この日の午前の活動ではグループごとに、1本ずつ木を切った。自分のグループは倒そうとした時に木がなかなか傾かず、倒すのに時間がかかった。しかしその分、倒した時の達成感はいつも以上に大きいものだった。そして、木にはそれぞれに特徴があるのだなと感じた。また、別のグループでは切った木が他の木に引っかかってしまっていた。木に引っかかってしまったときは、力の入れ方が大切なのだと思った。力の入れ方を工夫する事で反動によって引っかかってしまった部分を抜け出すことができることを知った。

午後の活動では森の整備をした。太い幹を残すように周囲の細い木などを切る作業をした。そのとき、日差しが当たりやすくなるように考えて選びながら周りの木を切るように心掛けた。木の枝が絡まっていたところでは、切る順序を考えて枝が落ちてこないように工夫しながら切った。

菅原 康太（GTE LAB 中学2年男子）





# 桜井尚武の 森のコラム 「ウグイスカグラ (*Lonicera gracilipes*) 」

スイカズラ科の樹高が1.5m～3m程度の落葉低木で樹陰下に多い。葉は対生し表面は無毛、広い楕円形で濃い緑色、下面に短毛を散生します(図1)。花は薄い紅色で3月～5月頃に1個または2個ぶら下がるように開きますが花柄が十分に成長していない時期には横向きや上向きなのがみられます(図2)、葉がまだ出ない早春に開くものもあり、今年の1月や2月にも観察できました(図3)。保育社の図鑑では葉に毛のあるものをヤマウグイスカグラというが変異幅が大きく区別できないとしています。この毛が腺毛のものをミヤマウグイスカグラとして区別する記述がみられました(図4)。果実は漿果(しょうか、液果)で赤く熟して食べられ、甘みがあっておいしいといえます(図5)。北海道南部から本州、四国、九州の各地の山地帯に分布します。

変わった名前ですが、鶯が鳴き始めるころ花を開き、また鶯が隠れる藪を作るのでかつてウグイスカグレと言ったものが変化したという説があります。また鶯を狩る場であるとかこの木の藪を渡り歩く鶯の様が神楽を踊るようだとか、さまざまな説があって、この木を多くの方が興味を持って注目していた様子が窺えます。

この木の葉柄が耳状に広がり隣の葉柄と合着して鏢(つば)状になるのがみられるそうです。図2の花柄の付け根の托葉に見える向かい合う小さな葉がそれかも知れません。

桜井 尚武 (本会、会員)

図1 ウグイスカグラ  
20180506 浅間山 府中東京

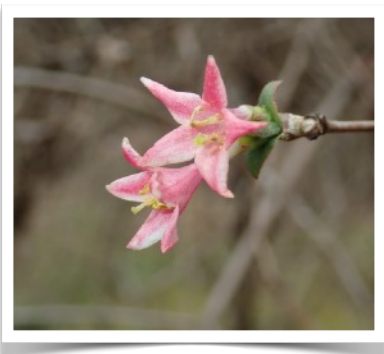


図2 ウグイスカグラの花  
20230314 科博植物園つくば

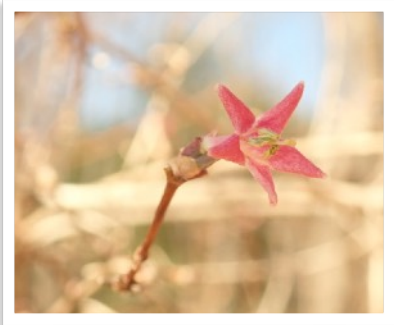


図3 まだ1月のウグイスカグラ  
20240108 昭和記念公園西立川



図4 腺毛が目立つミヤマウグイスカグラ  
20190328 皇居東御苑



図5 ウグイスカグラ果実  
20180506 浅間山 府中東京

## 【活動報告】

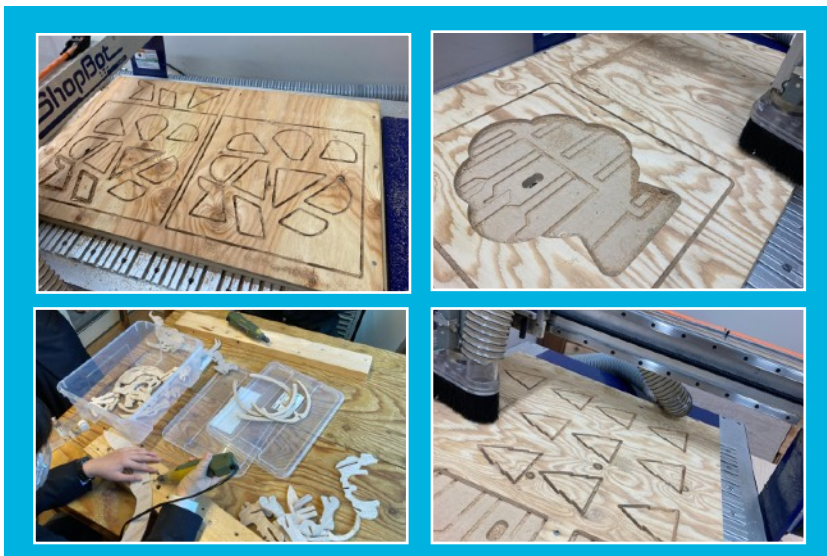
### 専門書籍に寄稿しました

この春に刊行されます日本森林学会関係の方がまとめられた「自然とともに生きる 森林教育学」（海青社）に寄稿しました。このうちトピックとして

「地域と学校の取り組み」を担当しました。本会の活動を、相模原での森林整備活動と、小金井での間伐材活用、広報活動に分けた時、参加する若者から見ると、「地域」は相模原と小金井になります。森林活動における

教育的な意義として、活動の達成感や、自己肯定感などいわゆる非認知能力にまつわる部分と間伐材活用におけるデジタル活用についてまとめてみました。前者はこれまで文章にさせていただく機会が多くありましたが、後者についてはSTEAM教育という視点ではきちんと書かせていただいたことがあまりなかったので、木育+デジタルファブ리케이션という視点では新しいものかと思っております。

木材加工はその自由度の高さから自分の思いを表現しやすいかと思えます。一方、真っ直ぐ切る、曲線を表現するということが難しかったですが、ShopBotを活用することでその部分を解決できるようにしています。機会ありましたらぜひ本書お取りになりお読みいただければ幸いです。 宮村 連理（本会、副理事長）



### 参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

### 危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

## NPO法人

### 緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構  
パタゴニア

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社) 東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、

(社) さがみ湖 森・モノづくり研究所



緑の募金



一般財団法人  
セブン-イレブン  
記念財団



SEKISUI HOUSE  
MATCHING PROGRAM

